

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900685		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと船橋小室		
所在地	千葉県船橋市小室町5077		
自己評価作成日	2020年10月30日	評価結果市町村受理日	2021年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	文書(書面)評価		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく清潔感が感じられ温かみのある施設内と、温かみのある心がけに努めている。リビングでは気兼ねなくいつでも自由に過ごして頂ける場所となっており、入居者同士やスタッフとも一番多く接する場所で談笑したり、テレビを見たりカラオケやレクリエーションをしたり食事をする場として使用しており、過ごしやすい場所として心掛けている。スタッフも落ち着いた環境で入居者と向き合い支援している。信頼関係を大切にして毎日の生活支援に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の1つに「基本的人権の尊重」。食事・入浴・排泄・睡眠等の生活場面で細心の注意をしている。例えばトイレ。3枚引戸とし、利用時にはロックを習慣としている。施設内ではゲーム、体操、貼絵等のレクリエーション、また天気の良い日は日光浴と、利用者の気分転換や運動不足の解消を図っている。家族との面会は当初はガラス戸越しで実施、面会禁止後は電話連絡を随時行い要望事項を聞くようにしている。医療面では、入所契約時に、利用者・家族の同意を得て24時間対応の「かかりつけ医」に変更している。コロナ禍に対応した運営をしており、利用者・家族に安心感を与えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々に近い施設であり、地域に開かれた施設であるように地域の方々と協力関係を深めていく	「基本的人権の尊重」など6項目の理念を掲げ、利用者が健康で快適な生活ができるように努めている。理念はホーム玄関に掲示されている。定期的に唱和を行い、共有を図っている。	新型コロナ禍のために、文書(書面)評価とした。事業所より提出いただいた①自己評価・②追加提出資料・③家族アンケート結果④新型コロナ感染防止策について⑤身体拘束・虐待研修記録⑥運営推進会議議事録⑦ご家族とのメールのやり取り(一例)⑧年間行事予定表⑨社内年間研修計画表⑩身体拘束等の適正化のための指針・回答内容等を参考にして実施した評価である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入して、地域の一員として参加し自治会員として認められている	自治会に参加している。地域の行事や清掃にも参加している(現在はコロナ禍のため中断)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第4日曜日、認知症カフェを開催し地域住民の方と交流の機会を作っている。現在、コロナウイルスにより中断をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月おきに開催しテーマを設けたりして活発な意見交換を行ったりしている	運営推進会議では、利用者の健康状況、介護度状況、レクリエーション活動の状況のほか、コロナへの対応状況等について報告と意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事などを含めて分からないことや困ったことなどを担当者に相談して解決している	市の窓口である高齢者福祉課には利用者の生活状況を伝えている。地域包括支援センターが運営推進会議に出席しており、アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の予定で資料や具体的事例を基に勉強会を行っている	運営推進会議を利用して、身体拘束適正化委員会の内容を報告し、ディスカッションをしている。	身体拘束適正化委員会の会議議事録の作成と保存をしてください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などへの積極的な参加を促し、職員に理解していただき防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解不足や勉強不足の部分があるのでみんなで理解できるよう少しずつ勉強していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居についてはしっかりとご理解いただけるよう十分な時間とご説明を行いご納得の上のご理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連絡は随時行っておりご意見やご要望についてはその都度反映できるようにしている。日常の写真を送ったりもしている。又、市担当職員等へも必要時お伝えしている	新型コロナの感染防止のため、現在は家族の訪問は中止している。そのため、家族とは、電話や手紙などを利用して定期的に情報交換をするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの中でも意見交換をしたり、月に1度のスタッフミーティングを行ったり、連絡ノートの活用も行いその都度運営に必要な事については出来る限り早く反映できるように努めている。	毎月のスタッフミーティング以外にも、仕事の中で意見を聞くようにしている。スタッフとのコミュニケーションは取れている模様。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や年に1度の昇給、勤務時間等については各職員と話し合い少しでも働きやすいようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング等短い時間でもスキルアップ出来るよう努めている。社内研修の機会も設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後同業他社や地域ネットワーク等での交流機会を設けてサービスの質の向上に繋げていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前での施設見学や面談等で不安や心配事などを確認し安心して入居が出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前での施設見学や面談等で不安や心配事などを確認し安心して入居が出来るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について話し合いを行いご理解できた上で支援できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事ややりたい事等を見極めてやりがいのある生活が出来るよう支援していく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人、知人等の面会や電話等で対応している。ただ、コロナウイルスの中なかなか難しい状況が続いている	知人や家族には『電話対談』『ガラス越し対面』等、馴染みの関係が継続できるよう工夫している。現在来訪者は少なく、利用者たちや職員が馴染みの人になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格などを踏まえて、仲良く過ごせる環境づくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、連絡、相談の受付をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自宅などでの生活状況を確認し、希望や思いに沿って生活が送れるよう努めている	契約時に、本人や家族から思いや施設での暮らし方の希望を聞いている。日々の支援の中で利用者の言動等に注視し、職員間で情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況の情報収集をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況や心身状況について毎日の記録を行い申し送りをして把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、職員より意見を聞き話し合い作成している	介護計画が適切か、個別記録や担当職員の意見を聞きモニタリングを行い課題がみつければ、本人や家族の意向、担当医の意見も参考に再度介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個別記録で記入し、職員間で情報共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況や状態等に応じて必要なサービスが行えるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な機関との連携が取れるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族、職員と医師と話し合い必要な診療を受けている	利用者・家族からの同意を得て、24時間対応の当ホームの『かかりつけ医』に変更し、必要に応じて診療往診を受けている。月2回歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療所と連携を図り必要な指示や対応をして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員やワーカーと面会や情報収集を行い退院に向けての共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居契約時に当施設での対応などの説明をしている	利用者が重度化した場合、本人や家族、医師等と協議し方針を決めている。看取りは、研修を受けた職員がチームで取り組み、対応後の職員の心のケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内で初期対応や応急手当、AED研修などを行い対応できるよう努めているが、必ずしも確に十分な対応が出来るのは難しいと思われる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っているが、地域との協力体制は築けていない	年3回の避難訓練は、火災発生を想定して実施している。消防署員の協力を得て避難や消火器操作法訓練も実施している。ホーム所在地は新興住宅街であり、未だ地域ぐるみの避難訓練は行われていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応の仕方には、尊重しながら行うように努めている	職員はどのような場面でも、利用者の眼を見てゆっくり声掛け、利用者の気持ちに寄り添い話を聞くよう努めている。3枚引戸のトイレには、『ノックをしましょう。』と書かれ注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で選んでいただいたり意思や希望を確認して自己決定をしていただけるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	お茶の時間や食事の声掛け促し行うが、どうするかはご本人に決めて頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服や着替えなどはご自分で選んで決め手頂き、希望時は2ヶ月に1度の散髪も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	用意や片づけを皆で行い職員も一緒に食事をしている	副菜等は、管理栄養士監修の宅配食を毎食利用し、『刻み食から普通食での完全摂取』が目標である。利用者は毎日味がかわる手作りおやつやゼリーを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別記録に記入している。嚥下状態に合わせ食事形態にも工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い必要に応じて介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け見守り行き習慣づけに心掛けている	声掛けや見守りで、紙パンツやパットを使用しながらも全員が『トイレでの排泄』を目標にしている。職員は夜間も利用者を見守り、行動探知センサーなどは特に使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を記録記入を行い、ドクターと連携して調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や様子を見ながら声掛けを行い、本人の希望や変更を行っている	季節や利用者の体調、希望に応じて入浴を調整している。浴槽は2方向から職員が支援できるように設置されている。利用者の健康状態を把握するため、入浴剤は使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や体操の時間は決まっているが、ご本人の様子やペースでお任せしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設で管理をしておりドクターの指示を頂きながら、様子確認などを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、家事等ご本人が出来ることをお願いして行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等により施設周辺や近くの公園などへ散歩を行っている	戸外で花や野菜を育てたりしている。公園までの散歩コースは、大体決まっており、介助があれば10人程度は散歩することが出来るが、現在は、コロナ禍・寒さの為に外出を控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理をしておりご要望や必要なものがある時には一緒に買い物に行ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自分が愛用していた物を使ってもらったり、施設内も柔らかな調光にしている	朝は居間でラジオ体操をし、午後は長廊下で歩行練習をしている。日中は居間で寛ぐ利用者が多い。利用者が話をしないで1日が終わることがないように、職員から積極的に話掛けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自由に好きな時に来られるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご見学時やご入居前にご本人が使っていた物を持って来て頂き落ち着く慣れ親しむ場所として頂いている	居室内の洗面台で手洗い、洗面を済ませることができる。乾燥防止に濡れタオルを広げることも可能。掃除やクローゼットの整理整頓は利用者と家族・職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用廊下やトイレなどには手すりを設置し、ゆとりのあるスペースの確保も行っている		